

講演レポート： 澤登雅一の医療情報セミナー

「あきらめないがん治療～高濃度ビタミンC点滴療法」 ～新しい薬物療法として、また安全な支持療法として期待できる！～

先進的ながん治療とアンチエイジング医療をご提供する三番町ごきげんクリニック(東京都千代田区)の院長、澤登雅一が、5月20日の医療情報セミナーにて「新しいがん治療法としての高濃度ビタミンC点滴療法」について講演しました。セミナーでは、同クリニックの患者様にも治療体験談を話していただきました。

■ 高濃度ビタミンC点滴療法は、標準治療か代替療法か？

講演冒頭、澤登は、高濃度ビタミンC点滴療法はこれまでは代替療法と受け取られがちであったが、標準治療にも入り得る可能性をもつ治療法であると定義しました。その上で、同療法が担う2つの役割を紹介。それぞれの役割によって、求められるものや期待できる効果が違うことを説明しました。

1. 新しい薬物療法

抗腫瘍効果に対する基礎・臨床研究が進められており、一層のエビデンスが必要ではあるが将来的に標準治療になる可能性がある。

2. がんの支持療法

ビタミンCが本来もつ栄養・免疫・粘膜保護、抗ストレス、疼痛緩和などに期待できることから、がん患者様のQOL(生活の質)改善にむけた治療として期待できる。

■ エビデンスつくりに向けた東海大学との共同研究

また、澤登は、高濃度ビタミンC点滴療法を標準治療により一層近づけるべく、東海大学医学部と基礎的、臨床的研究に取り組んでいることを紹介しました。第1層の臨床試験により、同療法の安全性とビタミンCの適切な投与量が確認されたこと、また、動物実験によって確認された抗腫瘍効果などを、データを示しながら発表しました。

■ 高濃度ビタミンC点滴療法の適応

さらに、高濃度ビタミンC点滴療法の適応がある方として、以下のポイントをあげました。

- ①有効な標準治療(手術、抗がん剤、放射線治療)がない例
 - ②標準治療の効果が不十分な例
 - ③再発予防、寛解期間の延長を目指す例
 - ④標準治療の効果増強・副作用軽減を目指す例
 - ⑤QOL(生活の質)の改善を目指す例
- ⑤のQOLの改善については、「患者さんやご家族にとって、その方が“どのくらい生きたか”と同じくらい、“いかに生きたか”、も重要だと考えています。」と澤登は語りました。加えて、余命半年を宣告されても、病院で寝たきりですごすのか、家でぎりぎりまで自分らしく生きるのかというのは、エビデンスでは語るできない重要な点ではないかと述べました。

■ 高濃度ビタミンC点滴療法のメリット

最後に澤登は、高濃度ビタミンC点滴療法のメリットとして、以下の点を紹介しました。

- ・ がん治療としては副作用がほとんどない。
- ・ 抗がん剤や放射線療法と併用できる(すべき)。
- ・ 治療手段がないといわれた症例に対しても行うことができる。
- ・ 栄養状態や全身状態の低下を防ぐ・遅らせることができる。 →QOLの改善

また、本治療を安全に受けるために、①必ず主治医と相談する。②標準治療(手術や抗がん剤・放射線療法)を優先させる。あるいは標準治療と併用する。③がん治療経験が豊富な(がんの専門医がいる)医療機関を選ぶ。④保存剤のないビタミンC製剤を用いることを挙げました。

■ 高濃度ビタミンC点滴療法と標準治療の併用によりホジキン病を克服された患者様の治療体験談

次に、同クリニックの患者様で、悪性リンパ腫の一種であるホジキン病を克服された患者様より、ご自身の治療体験談をお話いただきました。この患者様は、2010年にホジキンリンパ腫の告知を受けました。もともと、抗がん剤に対してネガティブなイメージをもっておられ、当初は高濃度ビタミンC点滴療法単独の治療を希望されました。しかし、血液内科が専門の澤登より、「悪性リンパ腫は化学療法が非常によく効く病気であること、標準治療との併用が効果的である。」という話をさせていただいた結果、澤登が以前勤務していた日本赤十字医療センターで化学療法と放射線治療を受けながら、高濃度ビタミンC点滴の治療に取り組まれました。治療を併用されたことで、

- ① 抗がん剤の副作用が比較的軽度ですんだこと、
- ② 放射線の跡や、検査の際に縫った傷が早く治ったこと、
- ③ 主治医の先生と澤登の連携がとれていて安心だったこと

などのメリットを挙げられました。治療が無事に終了し、寛解状態にある現在も、再発の予防のためにも、月に1回程度の通院を続けていらっしゃいます。

【澤登雅一 プロフィール】

1992年、東京慈恵会医科大学卒業後、血液内科医として日本赤十字社医療センターで白血病や悪性リンパ腫などの血液がんの臨床に従事。2005年より三番町ごきげんクリニック院長。病気を診る立場から、病気にならないことの重要性を痛感し、アンチエイジング医療を実践するとともに、ライフワークとしてがんの治療に力を注いでいる。医学博士。東海大学血液腫瘍内科非常勤講師。日本抗加齢医学会専門医・評議員、日本内科学会総合内科専門医、日本血液学会専門医、米国先端医療学会(ACAM)キレーション治療認定医。これまでに開発したサプリメントは、レスベラトロール、アレルギーファクターなど。著書に、『人より20歳若く見えて、20年長く生きる!』『ビタミンCはガンに効く』(ディスカヴァー携書)。



【三番町ごきげんクリニック】

- 設立年：2005年
- 事業内容：アンチエイジング医学の治療及びコンサルティング/がんの個別化治療
- 院長：澤登雅一
- 所在地：東京都千代田区三番町8-1 三番町東急アパートメント1101
- TEL: 03-3237-0072 FAX: 03-3237-0039
- URL: <http://www.cancerclinic.jp/>

＜お問い合わせ＞

三番町ごきげんクリニック 広報担当: 市川美穂、大谷恵

TEL: 03-3237-0072 FAX: 03-3237-0039 E-Mail: info@kenko.org